



BE THE INSPIRATION

国際ロータリー 第2570地区 第2グループ

# 志木ロータリークラブ

2018-19年度 国際ロータリー会長 バリー・ラシン 「BE THE INSPIRATION—インスピレーションになろう」  
 2018-19年度 第2570地区ガバナー 茂木 正 「想いを繋ぎ地域と国の発展に奉仕する」  
 2018-19年度 志木RC会長 林 康雄 「凛として挑む 一衆の目的を目指し」

第2274回 例会

2019-4-3

- ◎司会 高橋健一郎 副会長
- ◎点鐘 林 康雄 会長
- ◎ソング 君が代・奉仕の理想
- ◎ソングリーダー 榎本 秀夫 会員
- ◎四つのテスト 榎本 秀夫 会員
- ◎ゲスト ソダリ・セール・バハドルさん  
(米山奨学生)



林会長と米山奨学生ソダリさん(記事はP2に掲載)



ソングリーダー・四つのテスト 榎本秀夫会員

## 「会長挨拶」

会長 林 康雄

今月は、母子の健康月間です。ロータリーのウェブサイトによると、毎年、5歳未満で命を落とす子どもは、世界で推定590万人いるとされています。その原因は、栄養失調や適切な医療・衛生設備の欠如など、どれも予防が可能なものばかりだと言われています。開発途上国では、毎年35万人もの女性が、出産後の出血・敗血症・妊娠高血圧症候群・危険な人工中絶などのために亡くなっていると言われています。アフリカでは、助産師など専門教育を受けた医療従事者からの介助を受けられずに、半数以上の出産が行われている

そうです。このように途上国では予防や治療の手立てがあるにも関わらず、母子の命が失われている現実があります。

かつては、日本でも江戸時代後期の北関東での農村における死産率を推定した研究では、出産のうち10～15%程度が死産で、乳児の死亡を合わせると、出生児10人のうち6歳を無事に迎えることができるのは7人以下、16歳まで生存できるのは5～6人であったとされています。これは農村部だけの話ではなく、都市部においても町人や武士、大名でさえも、乳幼児の死亡率が現代と比べものにならない程高かったようです。

日本の伝統文化に、生まれた子の初節句を祝うため、3月3日の雛祭りや5月5日の端午の節句があります。近代医学が浸透する社会を迎える前には、邪気をふせぐために、菖蒲を軒などに挿し、神が降りてくる目印としたり、人形が厄・災いの身代わりになるとして五月人形を飾り、産まれたばかりの娘の健やかな成長と幸せを、美しい雛人形に託して

祈ったとも言われています。

医学・医薬・医療設備がめざましい発展を遂げた今日では、先進国では出産を原因とする母子の死亡率は極めて低くなっていますが、開発途上国では、今日でも予防が可能な原因にも拘らず、母子が命を落としている現実があります。すべての母子が質の高い医療を受けられるようロータリークラブは世界中で支援活動の手を差し伸べていると報告されています。

その中で、日本のロータリークラブが姉妹都市との絆でブラジルの新生児を救うというロータリープロジェクトの紹介が、国際ロータリーのウェブサイトに掲載されていました。岐阜県中津川市の二つのロータリークラブとブラジルの **Registro** ロータリークラブは、中津川市とレジストロ市が姉妹都市であることから、双方の市のロータリアンは互いに定期的に交流し友好を深めてきました。

レジストロ市のあるブラジルのサンパウロ州では乳児の死亡率が高い値を示していました。そこには、二つの現実的な問題がありました。私立病院の費用を払える人と払えない人がいること。町の公立病院の新生児集中治療室には保育器が不足していることです。公立病院の新生児集中治療室が満員になると、赤ちゃんを隣町の別の病院や 24 もの町をカバーする州立病院に搬送する必要があります。しかし、最も近い病院でも 48km も離れていて、新生児の両親は何か月も長距離を往復しなければなりません。そこで、中津川の二つのロータリークラブと **Registro** ロータリークラブは、ロータリー財団のグローバル補助金を使い、町の病院の新生児集中治療室に保育器 5 台を追加しました。その他、新生児医療に必要な様々な医療設備も提供しました。これにより、町の病院はそれまでの倍近い新生児の受入れができるようになりました。プロジェクトを開始した 2013 年には新生児 129 名、プロジェクト完了後も毎年、新生児 220 名の命を救っていると報告されています。

## 「幹事報告」

幹事 市之瀬正靖

1. 地区事務所より「ロータリーの森」奉仕活動参加の願い受信  
日時：5月25日(土) 10:00~12:00  
場所：秩父市羊山公園内「ロータリーの森」
2. 例会変更 4 件受信  
○富士見RC ○新座RC 詳細は事務局へ
3. 志木市青少年育成市民会議より「志木市青少年育成市民会議だより」受信

## 「米山功労者伝達」

会長 林 康雄



武藤典夫会員 小林八郎会員 塩野章会員

## 「奨学金授与」

会長 林 康雄

林会長より米山奨学生ソダリさんに奨学金。ソダリさんから挨拶と近況報告がありました。

## 「ご夫人とご家族への感謝の日」

親睦活動委員会 委員長 影山和良

いつもロータリー活動にご協力いただいているご夫人とご家族へ感謝の印を贈ります。

- 2日 古田 操様 6日 高野美代子様  
26日 志村 礼子様 27日 榎本 明子様  
29日 武藤 敬子様

事務局：5日 宮地 俊子様（勤続 25 年）



## 「委員会報告」

●親睦活動委員会 委員長 影山和良  
親睦旅行のお知らせ

来る5月22日～23日に予定しております。大宮駅から新幹線で2時間。あつという間の金沢でイタリアンフレンチをいただき、その後はリムジンバスで千里浜から松ちゃん一押し和倉温泉「のと楽」で露天風呂から絶景七尾湾を。翌日は輪島の朝市や輪島塗を見学します。1泊2日で盛りだくさんの内容にご参加宜しくお願い申し上げます。

## 「卓 話」

「ロータリー情報 ～五大奉仕～」

R情報委員会 委員 西川和人



今月のロータリー情報の担当を仰せつかりました西川です。

まず、この場をお借りしまして皆様に今一度お願いを申し上げたいことがございます。先日20日の読売新聞の1面に東日本大震災でご両親を亡くされた昆愛海さんが、小学校を卒業された記事が載っておりました。

震災から8年が経過し、当時4歳だった彼女が無事に小学校を卒業し、いっしょに暮らしているおばあちゃんに卒業証書を渡している写真を拝見しまして、とてもうれしい気持ちになると同時に、昆愛海さんが大学を卒業するまであと10年もある。今担当させていただいております希望の風奨学金制度をしっかりと継続し、震災遺児の皆様の成長に役に立てるように今まで以上にしっかりと取り組んでいかねばという強い気持を持ちました。毎月皆様のご厚意を頂いておりますが、これ

は当たり前の事ではなく、皆様の心からのご協力が本当に有難いことだと思っております。

今さらですが、この希望の風奨学金制度はご存知の通り2011年に起きた東日本大震災で両親または片親を亡くした遺児の方々が、高校を卒業し、大学・短大・専門学校に進学した際に就業している間毎月5万円の返済不要の奨学金を支給する制度です。

制度自体は全ての震災孤児が学業を修了するであろう2033年3月までの期間限定プロジェクトです。この制度の対象となる遺児は総数1724人(内岩手・宮城・福島で両親を亡くした遺児が241人、片親を亡くした遺児が1483人)です。金額として、全額で10億8千万円と試算されています。少しデータが古いのですが、昨年夏の時点で1億7千7百万円不足しているとのこと。そして、これまでに、362人の奨学生に約4億8千万円支給をしたとの報告がございます。今年度も新たに多くの奨学生に支給が始まっています。

(注・ご紹介したデータは昨年9月の第2580地区東京武蔵野中央RCにて地区ロータリー希望の風奨学金支援委員会の百目鬼委員長の卓話にて確認しました)

どうぞ皆様引き続きのご支援をお願い申し上げます。では本題へ移ります。

前回、私が担当しました12月のR情報の時に、今回は「奉仕のお話」と、勢いで予告を申し上げましたので、ロータリークラブにおける五大奉仕についてお話をさせていただきます。まず、その五大奉仕とは、今更皆様に申し上げることではありませんが、確認をいたします。

1. クラブ奉仕、2. 職業奉仕、3. 社会奉仕、4. 国際奉仕、5. 青少年奉仕

の5つですが、これらの背景を少し探ってみたところ、最後の青少年奉仕についてはつい最近2010年の規定審議会で採択されたとのことでした。約10年前のことなので、会場の

例会は変更になる場合があります。ご確認下さい。

■新座RC (木) 12:30～13:30 ベルセゾン

■和光RC (月) 12:30～

郵便事業(株)和光支店3F

第2グループ各RC 例会日・会場一覧

事務局 048-473-7041

事務局 048-465-0088

2274-3◇

志木RC会報

先輩方は、当時、なぜもう一つ奉仕部門が増えるのか違和感を覚えた方もいらっしゃったかと思います。この五大奉仕とはいったい何なのか？ 私の悪い癖で、原理原則をきちんと把握したいという欲求にかられ、今回この五大奉仕が、クラブにおいて何を示し、何のために存在するのかを考察したいと思います。

五大奉仕部門については標準ロータリークラブ定款第6条に記載がございます。そこには「本ロータリークラブの活動の哲学的および実地的な基準である」とあります。哲学的、実地的な基準とは？ これは何を意味するのでしょうか？

先ず言葉として、意味が分かりづらい。「実地的な基準」はロータリークラブの活動の根本を表すということが理解できるのですが、「哲学的基準」とはいったいどういう事なのか？ 今日まで何冊かのロータリー関連の書物を読み進め、調べてみて、私はとんでもない扉を開いてしまったと、簡単に皆様にお話をする話題ではないと、ここで気がつきました。やってしまった…。風呂敷を広げ過ぎました。もっと簡単なテーマにするべきだったと後悔しています。

しかしながら、五大奉仕が実地的な基準であることは、この五大奉仕を理解して、これを基準として活動しないと、ロータリークラブとは言えない、という点は理解しました。私にとってこの理解はとても意味があることです。入会してから、各委員会のあり方についてなど考えたこともなく、年数が経てばそのうち段々わかってくるだろう、と高をくくっておりましたが、活動の拠り所となる五大奉仕を認識しているとしていないとでは雲泥の差がある。今さらですが、会員として例会に参加する意味を捉え、理解する機会となりました。ロータリークラブの各委員会が、この五大奉仕により成り立っていることも改めて認識し、年度計画書にある定款を確認いたしました。

五大奉仕の第一部門であるクラブ奉仕は定款上、「本クラブの機能を充実させるためにクラブ内で会員が取るべき行動に関わるものである」とございますが、こちらが第一部門とあげられることは、前回のR情報でお話を申し上げました通り、ロータリークラブの出発点が親睦活動であったということが裏づけされているのと感じます。

クラブ奉仕はロータリーの目的にかなった例会を持つためのもの、会員増強や親睦の効果を上げるために出席、親睦活動、会報、SAA等の委員会が存在するのだと理解することができます。

また、第三部門である社会奉仕部門は定款上、「クラブの所在地域または行政区域内に居住する人々の生活の質を高めるために、時には他と協力しながら、会員が行うさまざまな取り組みから成るものである」とありますが、こちらは比較的わかりやすい部門であります。

ちょうど先週末のさくらフェスティバルに志木市コミュニティ協議会の一員として出店協力したことや、先日の踏切地下道壁への絵画寄贈、また、みつばすみれ学園の夏祭りのお手伝いなどが挙げられると思います。

第四部門の国際奉仕は、「書物などを読むことや通信を通じて、さらには、他国の人々を助けることを目的としたクラブのあらゆる活動やプロジェクトに協力することを通じて、他国の人々とその文化や慣習、功績、願い、問題に対する認識を培うことによって、国際理解、親善、平和を推進するために、会員が行う活動から成るものである」とあります。

こちらはポリオ撲滅活動が端的な例ですね。海外で井戸を掘る事業を推進したり、海外クラブとの姉妹提携などもこちらの部門になるものと理解が出来ます。

また、第五部門であります青少年奉仕は、「指導力養成活動、社会奉仕プロジェクトおよび国際奉仕プロジェクトへの参加、世界平和と異文化の理解を深め育む交換プログラムを通じて、青少年ならびに若者によって、好

ましい変化がもたらされることを認識するものである」とあります。

こちらは青少年交換、ローターアクト、インターアクト、RYLAなどの青少年育成支援事業を推進することと理解が出来ます。ボーイスカウト活動支援協力もこの部門となりますし、冒頭に申し上げましたロータリー希望の風奨学金も青少年奉仕部門となります。

こちらと比較的理解しやすい。

皆様もお気づきだと思いますが、第二部門である、職業奉仕部門を飛ばしております。これには理由があるのですが、ロータリーの金看板とも呼ばれるこの職業奉仕部門ですが、私にとってこれが一番重要な事だと感じる部分であり、且つ、非常にわかりにくいものがあります。

定款上は、「職業奉仕は、事業および専門職務の道徳的水準を高め、品位ある業務はすべて尊重されるべきであるという認識を深め、あらゆる職業に携わる中で、奉仕の理念を実践していくという目的を持つものである。会員の役割には、ロータリーの理念に従って自分自身を律し、事業を行うこと、そして自己の職業上の手腕を社会の問題やニーズに役立てるために、クラブが開発したプロジェクトに応えることが含まれる」とあります。

先ほど分かりにくいと申し上げました、その最大の理由は『奉仕の理念』という言葉です。この奉仕の理念を理解しないと職業奉仕が理解できないと感じています。もっと申し上げれば、この『奉仕の理念』という言葉は、ロータリーの目的「意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むこと」としっかりと定款にも記載してあり、つまり、奉仕の理念を理解しないとそもそもロータリーの会員としていかなものかとなってしまいうのです。

この奉仕の理念とはいったい何なのか？

これをわかりやすく解説している文書は無いのか？ いろいろと探すうちに、ロータリー百科事典にて『決議 23-34』の中に見出す

ことが出来ました。

その第1条に「ロータリーは基本的には一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情とのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は奉仕—『超我の奉仕』(Service Above Self)の哲学であり、『最もよく奉仕する者、最も多く報いられる』(He Profits Most, Who Serves Best)という実践的な倫理原則に基づくもの」とあります。

すなわち、このことがロータリーの奉仕の理念であり、他人のことを思いやり、他人のために尽くそうという奉仕活動の根本原理であることが定義されています。

職業奉仕は、利己的な欲求を超えて他人のために尽くすことを念頭に置きながら、自らの職業の道徳的水準を高め、行動すればより良き社会を造ると共に本人も幸せになると言い換えることが出来るのではないかと感じました。かなり大胆な解釈で、自分に都合の良いように理解しているとも感じております。が、しかし、ここで大事なことは、ロータリーは単なる思想哲学ではなく、それを拠り所とし、実践する、行動することを定義づけしていることがポイントだと思っております。

『決議 23-34』の第2条ではそれぞれのロータリアンが独自の方法で職業人および専門職業人の代表としてロータリーの奉仕の哲学つまり『超我の奉仕』を受け入れ、各人が個人としてその理論をそれぞれの職業および日常生活において実践に移すことと定義されています。

私自身、世の中に一番貢献できるのは何か？ それは自分の職業を通じてだと。

限られた時間の中で、職業を通じる時間が一番多い、その職業が世の中に役に立つことであればそれはとても幸せなことであるし、より多くの人々の役に立つために、専門性を高め、価値あるものとなるよう奉仕の理念を

持って日々努力、実践することが職業奉仕なのだ、今回の R 情報の時間をいただいて気づきを得ることが出来ました。

あまりにも大雑把な捉え方で、異論反論をお持ちの皆様もいらっしやと思います。今日お話しいたしましたことで、これから皆様とロータリーの奥深き魅力について、『奉仕の理念』について、例会を通じてお話しする機会をたくさん持つことが、本日お話ししましたことが少しでも意味あるものになると思っております。

今後ともどうぞご指導よろしくお願ひ申し上げます。まとまりませんが、これでお話を終わりにしたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

●出席報告 出席向上副委員長 岸尾 守

会員数44名 出席義務者35名 免除者9名

本日出席	本日欠席	本日出席率
36名	4名	90.00%

前々回 MU	前々回修正出席率	平均出席率
(7名中2名)	86.84%	94.02%